

## 編集後記

近年、「研究機構」の設立や再編成が大流行りである。国立系の研究組織では、肥大化し、拡散した組織のスリム化の目的もあるだろうが、そこに蓄積された人的・物的資源を有効活用し、研究者のネットワークを構築する目的が、研究機構には求められている。

国際常民文化研究機構は、まさに日本常民文化研究所に所蔵されている漁業制度資料やアチック写真・フィルムなどの生活文化に関わる資料を公開し、共同利用することによる共同研究拠点の形成をその目的としている。民俗学だけでなく、多方面の研究者ネットワークを構築し、現在8つの研究プロジェクトで国内外合わせてのべ76名の研究者による共同研究がおこなわれている。

その研究成果報告を年報に掲載していくこととした。その外、国際常民文化研究機構の事業内容の報告と共同研究者による活動報告を掲載する。

論文・報告などの投稿、その他ご協力頂いた方々に感謝する。今回は、とくに、野村伸一先生を研究代表者とする「アジア祭祀芸能の比較研究」プロジェクトの共同研究者の方々にはほぼ全員による論文・報告を寄せていただき、改めて感謝したい。それを第4部として編集させていただいた。

(小熊 誠)

神奈川大学 国際常民文化研究機構 年報 1

Annual Report No.1

International Center for Folk Culture Studies

Kanagawa University

---

発行日	2010年10月30日
編集・発行	神奈川大学 国際常民文化研究機構 〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 <a href="http://icfcs.kanagawa-u.ac.jp">http://icfcs.kanagawa-u.ac.jp</a>
印刷	共立速記印刷株式会社
雑誌コード	ISSN 2185-3339